

家庭こそ 教育の原点



岡崎市教育委員会

教育委員長職務代理者 大原 憲一 氏

教育随想



平成18年4月1日

4月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想	1
岡崎市教育委員会教育委員長 職務代理者 大原 憲一氏	
この人に聞く	2
葵桜の会代表 三橋美千子氏	
羅針盤	2
大樹寺小学校長 江村 力	
ふれあい	3
福岡小 板倉 恵 竜海中 永井 利昌	
特集	4
平成18年度 学校教育の視点	
お知らせ	6
フォト・ヒストリー	8
音楽教育(昭和58年)	
この本を	8

人間は、コミュニケーションの手
段として言葉という特別な能力を持つ
ている。最近、家庭、学校、地域社
会と子供を取り巻く環境の中で、こ
の言葉によるコミュニケーションが
大きく欠けているのではないだろ
うか。

先日、レストランで目にしたある
母子の光景である。テーブルにつく
なり母は雑誌を広げた。小学校高学
年であろう男子はゲームに夢中。会
話は全く無い。食事中も同様だ。や
がて会話の無いまま食事が終わった。
男子の皿にはまだいっぱい残ってい
る。母親はそれが目に入らないかの
ように「勿体ない」とか「もつと食
べなさい」などと一言も言葉をかけ
ず、テーブルを後にした。これでは

母親としていちばん大切な教育が出
来ていないのではないだろうか。

私は家庭こそが教育の原点である
と考える。昨今、家庭における親子
のコミュニケーションがうまく機能
していないのは事実である。親が子
に何かを言えば不貞腐れるし反抗す
る。だから、つい沈黙を決め込む。
子が親に何か相談すれば逆に小言を
言われるので相談するのも面倒。こ
んなことを繰り返すうちに、いつの
まにか本来家庭において親が子にし

つけないといけない、教えなければならぬ、大切なことが、
宙に浮いてしまうのである。親も子
も、もつと真剣に向き合い、恐れず、
面倒くさがらずに話し合わなくては
ならない。そこから学校と地域社会
とがかかわり、教育がスムーズに機
能するのである。教育の全てを学校
に任せるのでなく、人間として最も
大切なことを家庭において教えず
てはならないと考える。

(おおはら けんいち)





葵桜誕生秘話

葵桜の会代表

三橋美千子 氏

立春の翌日、三橋さんを訪ねた。乙川堤に並ぶ八十五本の桜は、寒風に梢を震わせ、花芽をまだ固く結んだ状態だったが、三橋さんは春満開の笑顔で迎えてくださった。

「二十年前、今の地に家を建て始めた矢先、対岸の高校の川べりの桜の大木が、次々に切り倒されました。そして、治水のために川幅が広げられ、護岸工事でコンクリートだらけの風景になってしまいました。家からのお花見を楽しみにしていたのに。チェーンソーの音が、まるで桜の悲鳴のように聞こえました。」



平成十年、葵桜と運命的に出会い、その美しさに魅せられたそうだ。

「こんなきれいな桜を、みんなが自由に見られる場所に植えたい。植えることをあきらめて後悔するくらいなら、やっつからあきらめても遅くはない。ほとんどすべてのことは一人から始まるのだから、気付いたわたしがやればいい。」

その時から、三橋さんの挑戦が始まった。二十二年前に腎臓を患い、現在でも一日おきに通院し、四時間の透析を行っている。

「いちばん大変だったのは行政を動かすこと。頭からできないと決めていた。女だてらにできるはずがない。月に二回のペースで役所に足を運んだり、何度も陳情の手紙を書いたり、新聞や文芸誌に投書したりしました。でも、

人間には不思議な出会いがあるものです。ピンチには助っ人が出てきます。頑張っていれば、神様が助けに来てくれるんです。」

多くの協力者や支援者を得て、三橋さんの活動は実を結び、平成十三年に待望の植樹式を迎えた。八十五人の市民オーナーの手で、葵桜は一本一本大切に植えられ、今に至る。

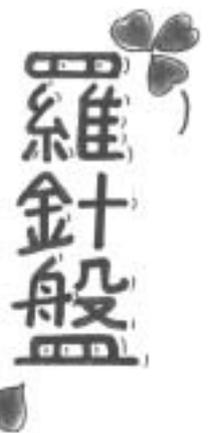
「行政が植えてくれた木に、愛着はわきません。お金を出さないと、愛情はわかないんです。市民が一人一人植えて育てれば、街を愛する気持ちも育ちます。今でも下草を刈り、イラガの卵を取って歩き、モグラや台風と戦い、庭師を呼び消毒や剪定を行う活動を続けています。あと五年は頑張ってみ守るつもりです。」

昨年三橋さんは、これまでの経緯を著書『葵桜誕生秘話』に記された。「人生は自動ドアではありません。

自分で取っ手を握らなくっちゃあ。自分でドアを押し開け、一歩前へ踏み出す勇気がなければ、何も変わりません。苦労があるから、楽しみや喜びがあるのです。」

巣立った子供たちにも、新たに出会う子供たちにも、伝えたい言葉だ。この三月、平成の花咲かばあさんの笑顔が、五度目の桜色に染まった。

氏名 みつはし みちこ
生年月日 昭和十四年二月六日
住所 東明大寺町六一三



岡崎の教師

大樹寺小学校長 江村 力

昨年度は文科省の仕事で、土曜・日曜はほとんど東京で過ごした。第一回目の会合の席で、

「岡崎から来ました江村です。よろしくお願ひします。」

と挨拶したところ、後で東京の先生から

「先生は、静岡の三ヶ日の近くからお越しですか。」と尋ねられた。

愛知の岡崎、教育の岡崎を知らないと。啞然とした。

岡崎の沃野を潤して流れる矢作川、乙川と、岡崎の人々の心の沃野を貫く教育の流れは、岡崎の土地に香り高い文化の華を咲かせ、豊かな心を育んできた。

私の若いころは、「日本の教育は岡崎から」という言葉が、岡崎の教師たちの合言葉でもあった。その言葉の響きからは、いつも水準の高い

大切なふれあいの時間

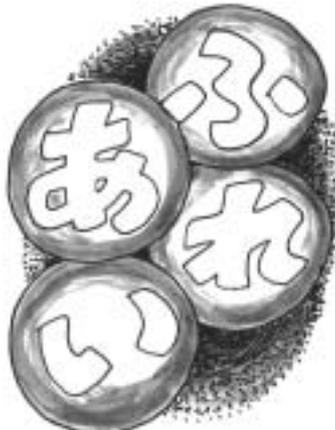
福岡小 板倉 恵

新任のころからの取組として、朝の健康観察で、一人一人の名前を呼んでいる。初めは緊張している子供たちも、慣れると生き生きと返事をし、その瞬間を楽しみにしている。朝の体の状態だけでなく、心の状態もよく分かる。そして、これを終えると、クラス全体がリラックスして、朝の学習に入ることができる。

もう一つの取組として、帰りに教室の出口で手と手を合わせ、挨拶をしている。たったそれだけのことなのだが、手を元気よくたたくとき、手をぎゅっと握ってくるときなど、一日を終えた子供たちの体調や心の状態が読みとれる。二学期から登校を渋りだしたA子や、自分をうまく表現できないB男には、「今日は頑張ったね」「明日は一緒にドッジボールをやるうね」な



どと、明日につながるよう、また、自信を持たせるように声をかける。表情や姿勢がぱっと変化する瞬間がある。逆にわたし自身も、子供たちから声かけをしてもらうことで、元氣やパワーをもらっている。一日の中で、どちらもたった五分くらいのことなのだが、わたしと子供たちにとって、大切なふれあいの時間である。



夜の教室から

竜海中 永井 利昌

四月からずっと空いた席がある。みんながいる教室に入ることができない子がいるのだ。家庭訪問を繰り返したが、会うこともできない。夏休みが明けたころ、「夜の教室に来てみないか」と誘った。だが、いつまでたっても返事はこなかった。

しばらくして、母親から電話があった。半年ぶりに彼の顔を見る。目線を合わせてくれたが、嬉し瞬間だった。



次の日から、夜の教室でA男の勉強が始まった。そして、しばらくすると他の子も一緒に勉強に加わるようになった。文化祭を間近に控えたある日、夜の校舎に合唱曲が響いた。この子たちの歌の練習が始まったのだ。「コンクールはクラスのみんなで歌えるといいな」それだけを伝えた。

いよいよ文化祭前日。昼間、クラスみんなに「協力してほしい」と訴えた。その日の夜、ほとんどの生徒が夜の教室に集まってきた。合唱隊形に並ぶ。「ここが君の場所だよ」と優しい声が聞こえた。ピアノ伴奏が始まる。みんなが初めて歌う『IN TERRA PAX』だ。長く続く廊下の暗闇に、その歌声は吸い込まれていった。

研究と実践に裏つけられた自信が感じられた。

今、私の机上に一冊の古暈けた研究紀要がのっている。昭和三十六年十一月二十二日、梅園小学校の研究発表会で配られた物である。題名は、「社会科学習の構造と展開」副題に「授業を確かに行うことと深くすること」とある。五十ページそこそこの小冊子は、タイプ印刷で、人目をひく写真や絵もなければ、美しく飾った表紙もない。ささやかな印刷物である。しかし、今に至っても、内容は決して色褪せてはいない。当時の岡崎の教師の必読書であり、今なお岡崎の教師の授業の考え方の基本となっている。この紀要に優る物に目にかかったことはまだ一度もない。それに比べ、昨今の研究発表会の紀要はどうか？……。

明日の岡崎の命運は教育にかかっている。教育は教師の力量にかかっている。「教師の力量以上に子供は伸びない」という。岡崎の教師、心して歩もう。本物を求めて。後で調べてわかったことであるが、静岡県の岡崎とは、湖西市の岡崎か、袋井市の岡崎のことを指していたのだろう。



平成18年度 学校教育の視点

▲ 健やかな体 —梅園小—

平成十八年一月一日に額田町と合併した新岡崎は、県下二番目の行政区、人口三十七万人弱の中核市となり、「人、水、緑が輝く活気に満ちた美しい都市」を都市像として動き出した。教育スローガン「深めよう学校 家庭 地域の絆」を掲げる岡崎市教育委員会は、平成十五年度に策定した「二十一世紀教育ビジョン推進計画」に基づいて、「心豊かにたくましく生きる力を育む」ことを目標に、子供の主体性と個性尊重の教育のいっそうの進展を図っている。

一 「学ぶ喜び」を味わわせ、「確かな学力」を育む学習指導の推進

子供が本来もつ学びの欲求を学ぶ楽しさ・喜びとして高め、意欲をもって自らの力で社会を生きぬく基礎的な力をつけるために、次の二点に留意し指導したい。

第一は、基礎的・基本的な内容の定着である。子供が生涯にわたって

成長・発達していくための基礎・基本を明確にし、繰り返し学んだり体験的な活動を取り入れたりして確実に身に付けるようにさせたい。そこでは、進んで学ぼうとする意欲や、どう学ぶかという学び方・学ぶ力が重要になる。昨今の学力問題を払拭すべく教師の努力で基礎学力の定着の徹底に努力したい。

第二は、周囲を取り巻く社会事象に目を向け、自分なりに気づき、課題意識をもって追究できる力を伸ばすことである。それによって、もっと知りたい、調べたいという意欲が強くなり、意欲的な学びが促進される。そして、子供たちが学ぶ楽しさや喜びを知り、生きてはたらく確かな学力を身に付けることにつながる。さらに、子供一人一人を見つめ、個性を生かすことにも心がけたい。そして、学びをより効果的にするために、常に評価の観点や規準に照らし合わせ、個々の学びが確かなものになっているかを見極めていきたい。そのために、学習内容・計画の中に重点的に扱う内容と発展的に扱う内容を明示した「岡崎スタンダード」を積極的に活用したい。

二 「豊かな心」と「健やかな体」を育む教育の推進

生活や社会環境の著しい変化に対して、人間として豊かに生きること



▲ 学ぶ喜び —矢作中—



▲ 確かな学力 —岡崎小—

学校教育に求められているものは、児童生徒が人間として生涯にわたって心豊かで、力強く生きぬくための基盤となる能力を育成することと、知・徳・体の調和のとれた感性豊かな人間形成を図ることである。

各学校においては、基礎的・基本的な内容を重視し、個に応じた指導を充実するなかで、児童生徒の個性を伸ばす教育を展開することが大切である。

そのために学校や地域の実態に応じて、創意工夫を生かした特色ある教育課程を編成して、子供が自他を敬愛し、喜んで通うことのできる、安全で魅力ある学校づくりを目指す。

「教育は人なり」の至言のごとく、岡崎の教師は、教育者としての使命感に燃え、全校一致の指導体制のもと、敬愛の情で結ばれた師弟関係を確立し、学校と家庭と地域との連携のもとに信頼される教育の創造に努める。

指導の重点

- 一 「学ぶ喜び」を味わわせ、「確かな学力」を育む学習指導の推進
- 一 「豊かな心」と「健やかな体」を育む教育の推進
- 一 特色ある学校・開かれた学校づくりを通した「信頼される学校経営」の推進

ができるようにするための資質と能力を他とのかかわり合いの中で育み、磨き上げていくことが求められる。

特に、人とかかわる場面においては、見つめる心・思いやる心・感謝する心・我慢する心等をもつことが大切である。誠意ある行動をとることができれば、相手は心地よく受け止めることができる。そして、お互いの信頼関係が深まり、人としての「豊かな心」が醸成されていく。

また、教師の人間性が、子供の人格形成に与える影響は大きい。教師自身が正義と倫理をもって、自己研鑽に励み、子供の手本として相応しい豊かな心と人格を磨き上げたい。

「健やかな体」を育成することは『生きる力』に直結するものである。体力の向上および心身の健康の増進を図るには、保健体育科の活動だけでなく、全教育活動の中で計画的に行う必要がある。さらに、家庭や地域との連携を図り、日常生活におけるスポーツに親しむ習慣や健康、食生活のあり方にも留意させたい。

三 特色ある学校・開かれた学校づくりを通した「信頼される学校経営」の推進

豊かな心の育成、自ら学び自ら考える力の育成、基礎・基本の定着や個性を生かす教育等の学習指導要領のねらい実現するためには、特色ある学校づくりや開かれた学校づくりがその基盤となる。そこで、各学校

が子供たちや地域の実態等を踏まえ、創意工夫を生かした教育活動を展開したり安全対策を講じたりしていくことが大切である。そのためには、指導方法の工夫や改善、スクールサポートボランティアや教育マイスター、地域の教育力等の積極的活用を展開したい。

また、学校の施設をはじめ、教育活動や学校運営、教員の意識等、学校を開くことも大切である。そのためにも学校便りやホームページ等で、学校経営方針や学校生活等を積極的に公開したい。また、学校参観週間を設け、保護者や地域の方に直接見てもらう機会を設けていきたい。さらに、オピニオン・サークルの活動や、中学校区児童生徒健全育成協議会等を中心に、学区全体で子供たちを育てていくことも重要である。このようにいっそう家庭や地域の信頼に応える学校づくりを推進したい。

以上、三つの重点に沿った教育活動を積極的に推進し具現化を図るために、目標管理サイクル「Research（実態把握）→Plan（目標設定）→Do（実践）→Check（評価）→Action（改善）」のもと、教育活動の充実・向上を図らなければならない。

各学校・園では、校長・園長のリーダーシップのもと、指導体制の確立を図り、「知・徳・体の調和のとれた人間形成」を目標に全職員で信頼される学校づくりに邁進されることを期待したい。

●表彰

※全て昨年度末の受賞であり、学校学年も昨年度の内容である。

◆第五十三回全国小中学生優秀作品コンクール(作文の部)

財団法人児童憲章愛の会会長賞

東海中三年 瀬瀬 安美

財団法人児童憲章愛の会理事長賞

東海中三年 富田 真奈

学校奨励賞 東海中学校

◆第四十二回全国児童才能開発コンテスト(作文の部)

才能開発教育財団理事長賞

緑丘小二年 田代 夕貴

財団奨励賞

緑丘小二年 野口優美香

学校賞 緑丘小学校

◆第五回 啓林館「教育実践賞」

河合中 小澤 弘 教諭

◆松下教育研究財団平成十七年度子どもニュース(KWN)プロジェクト

入賞 美川中二年 木村綾見、菊池聡恵

◆第四十九回全国小中学生書道コンクール

佳作 美川中一年 志賀 梓

◆日本ジュニア室内陸上競技大阪大会

走り高跳び

優勝 北中三年 河澄真子

◆県自作視聴覚教材コンクール

●学校教育部門(マルチメディア教材)

最優秀賞(教育長賞)

自作教材制作委員会G班

●生涯学習部門(ビデオ教材)最優秀賞(教育長賞)

自作教材制作委員会C班

●学校教育部門(ビデオ教材)優秀賞

自作教材制作委員会A班

◆第三十三回人権を理解する作品コンクール(ボスターの部)

最優秀賞 細川小六年 池田麻理子

◆県小学生バレーボール新人大会

男子優勝 六ツ美南部小学校

男子準優勝 矢作南小学校

◆読書ゆうびんコンテスト

日本郵政公社 東海支社長賞

愛知県知事賞 大樹寺小学校

竜海中三年 鬼頭沙友子

◆第七回創作童話・絵本コンテスト

デジタル絵本部門

経済産業大臣奨励賞

竜海中学校パソコン部

◆第十二回学校・学級新聞コンクール

優秀賞(学級通信)

緑丘小 柴田知子 教諭

◆第一回租税作文コンクール

岡崎税務署長賞 大門小六年 福井あゆ美

岡崎市長賞 六ツ美南部小六年 内場明梨

教育委員会賞 大雨河小六年 清水章司

税務連絡協議会長賞 羽根小六年 小林なな子

岡崎法人会長賞 緑丘小六年 木村有希

●平成十八年度新任教員

平成十八年度岡崎市小中学校新規採用教員は、八十三名(男性二十六名、女性五十七名)。配属は次のとおりである。

○小学校教諭 五十一名

梅園小 吉田安紀子

梅園小 清野 良祐

梅園小 太田 好乃

根石小 田村 靖

根石小 西垣津 明

根石小 佐々木幸美

男川小 加納 千世

美合小 横山 智一

緑丘小 小黒 雅美

羽根小 鳥居 典子

羽根小 安藤由香利

岡崎小 谷中美菜子

六名小 藤平 瞳

六名小 西澤由貴子

三島小 中谷久美子

竜美丘小 小林美恵子

竜美丘小 筒井由美子

竜美丘小 野々山すなお

竜美丘小 成田 道俊

竜美丘小 有馬 基

井田小 平岩 大督

井田小 石塚 葉子

愛宕小 石川 俊之

福岡小 實松 勇太

竜谷小 山本 磨生

藤川小 長田 知恵

山中小 河内 靖恵

本宿小 馬場 直子

生平小 香村久美子

○中学校教諭 三十名

甲山中 星井 令子

美川中 佐々木悠介

南中 奥村 清美

南中 野々山和也

南中 小山容史枝

竜海中 海藤 寿子

竜海中 森 裕美

竜海中 青井 良太

葵中 野村 友絵

福岡中 佐々木 穂

東海中 明石 優子

河合中 内藤利江子

矢作中 西脇ゆうみ

●平成十八年度岡教組執行委員

委員長 大西 和夫

副委員長 児玉 洋行

書記長 加藤 有悟

書記次長 安藤 真樹

組織部長 成田 隆行

情宣部長 柴田 明美

教文部長 竹平 真仁

福対部長 浅井 貞人

調査部長 熊谷 清一

青年部長 小島 英雄

女性部長 佐藤 孝子

会計委員 山元 嘉与

執行委員 荒河 昌吾

女性部常任 浅井 圭子

○養護教諭 二名

瀧波 文香

井田小 住田麻由美

音楽教育

(昭和58年)

写真提供：梅園小学校



昭和五十八年にブルガリア少年少女合唱団が梅園小学校を訪れた。そのときの音楽集会では、お互いが国の童謡を披露し合った。「夏の思い出」を合同合唱したり、低学年の子が「かごめ」や「とうりゃんせ」を浴衣姿で踊ったりして、親善交流が深められた。また、この前年には、全日本音楽教育研究会が岡崎市で開催され、梅園小学校もその会場校となった。

昨年度は、再び岡崎で全日本音楽教育研究会が開催された。歌や演奏を通じて子供たちを心豊かに育てようとする営みは、脈々と受け継がれている。

・題 岡崎市教育長 藤井孝弘
 ・タイトルバック 矢作北中 都築秀次
 ・カ ヲツト 矢作中 畔柳とも子



- * 米百俵の精神が囃う 福田 昭昌
教育開発研究所 ￥2200
- * ちきゅうはみんなのいえ
リンダ・グレイザー
くもん出版 ￥1400
- * 山内一豊の妻 楠戸 義昭
新人物往来社 ￥1800
- * ニート 絲山 秋子
角川書店 ￥1200

* ものづくり魂 井深 大
サンマーク出版 ￥1900

今、日本の物造りが危ないと言われる。この書は、著名企業の創業者、井深大と本田宗一郎の対談や遺稿をまとめたものであり、物造りの原点回帰を訴えている。

電化製品・自動車と造る物は違ったが、その「魂」は互いに引き合い、二人は親友であった。静的・動的と個性の違いも際立っていたが、できるはずのない物、多くの人を幸せにする物を「創る」ことを希求した点で共通した生きざまが、見事に浮き彫りにされている。今日の金満思想とは対照的である。

岡崎と額田が合併して、はじめての新年度。学校数や子供の数が増え、教育活動も融合しつつある。それぞれの良いところをすべて出し合ってより良い教育を展開していきたい。

合併元年の教育が子供の笑顔を増やす機会になってほしいものだ。

色彩鮮やかな川べりの情景。主役は、葵桜からソメイヨシノへ。教室にも新たな主役たちが集う。

「草木がいちばん元気になるのは、世話する人の足音である」と、ある校守は語る。子供たちのため、わたしたちもさあ、教室に向かおう。

シオ スア

アルバムの思い出の一ページにと、満開の桜の下で記念撮影する新入生の親子。新しい友達、新しい先生、どんな学校生活になるのだろう。四月は、毎日が新しい発見の連続である。

子供たちの輝く瞳に伝えるべく、私たちががんばっていきたい。

スマイレの花言葉の一つに、「謙虚」がある。学校に寄せられた保護者や地域の要望を真摯に受け止め、今年度の重点目標や年間計画を定めることは、この時期に取り組むべき課題だと言えよう。「教育は人なり」様々な声に耳を傾け、学び続ける姿勢を、子供と共に持ち続けたい。